

# 会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
会議名 (審議会等名)	令和元年度 第1回 嬉野市総合戦略推進委員会		
開催日時	令和元年7月30日(火) 13:30~16:00		
開催場所	嬉野市役所塩田庁舎3階 3-2会議室		
会議の公開の可否	Ⓞ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	戸田委員、副島委員、鵜池委員、西川委員、熊谷委員、 林委員、田中委員	
	事務局	総合戦略推進部長(池田)、企画政策課長(三根)、 企画政策課副課長(松本)	
	その他	なし	
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度事業効果検証シート</li> <li>・平成30年度地方創生関連事業一覧(地方創生推進交付金)</li> </ul>		
審議等の内容	別紙のとおり		

# 審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
議 題	1 平成 30 年度実施事業の進捗状況・評価・検証について		
内 容	平成 30 年度実施事業の内容及び進捗状況等について、事務局より説明の後、委員より意見を聴取し事業の評価・検証を行った。		
審議経過	事務局	嬉野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標ごとに概要説明及び各事業実施に関する補足説明を行う。	
		<b>基本目標①</b> <b>嬉野市に住みたい・行きたい“ひと”の流れをつくる</b>	
	委員	効果検証の基本的な考え方として、重要業績評価指標（KPI）が十分に達成されていない項目があるにも関わらず、具体的な施策の評価が「A」が並んでいる。どのようなことか？	
	事務局	KPIについては、5年間または5年後の目標数値として掲げたものです。現在、各年度に実施している評価は、KPIの達成度合い自体を評価・検証するのではなく、KPIを達成するために掲げた具体的施策の取り組み状況の評価とご理解ください。	
	委員	記載されている具体的な施策の各評価は、重要業績評価指標（KPI）の評価とは別に考えるということですね。	
	事務局	そういうことになります。記載しているA～Dの評価は、具体的な施策自体の事業進捗評価と考えてください。	
	委員	それでは、具体的な施策や各事業は実施したけれども、結果的にKPIが達成されていないとか事業効果が見えないなどという場合も出てくると考えられるが、その評価や事業検証はどうするのか？最終年度に改めて評価するのか？	
事務局	昨年度の本委員会でも同じような質問があり議論していただきましたが、そのとき決定しましたように、今回は、本総合戦略の5か年の総括としてのKPI達成度合い評価とそれを達成するための具体的施		

		策の評価・検証を実施する予定としています。
委員		KPI達成の評価は最終的に行うとのことですが、KPIに掲げている観光客数や人口の社会減等について、現時点でどうなのかという質問は可能か？
事務局		はい。現時点での実績数値をお示ししておりますので、それを取り巻く状況等についてご説明したいと思います。
委員		移住支援制度の創設について、空き家のリノベーション助成制度はすでに実施されA評価でもありとても画期的なことだが、空き家を利用したお試し移住はC評価である。該当事業の検討までされているようだが、制度創設までに至っていない原因は何か？
事務局		お試し移住や事務所を都市部から地方に構えるサテライトオフィスに関して、実際、候補物件の選定や借上げ賃料の交渉、運営管理体制まで検討しました。しかし、実際借上げても使い手借り手がなかった場合の財政リスクが大きく、現時点では費用対効果が得られないとの判断で事業実施にまで至っていないということです。
委員		リノベーション助成制度の創設に関して、リフォームを実施するのは空き家の持ち主の方になるのか？
事務局		リフォーム補助の条件として、空き家バンク登録物件であって売買等が成立し移住されるのであれば、売主または買主どちらの申請でもOKです。
委員		今年度は申請がきているとのことだが、売主・買主どちらの申請ですか。
事務局		問合せが4、5件あり、実際申請があった分は新しく移住してこられる買主の方の申請です。
委員		空き家リフォームは完了したが誰も入らないというやり方だと問題だが、売主買主のマッチングができた後に、リフォームするのであれば理想的だと思う。
委員		移住関連で定住奨励制度による定住者数は、想定された以上の実績が出ているようだが状況はいかがか？

事務局	<p>定住奨励制度として定住奨励金があり、KPIの定住者数は、転入者への奨励金と持家取得者への奨励金の対象となった方の合計人数になります。比率としては持家奨励金申請の方が多い状況です。持家奨励金は、直接的な人口増にはなりません、資産を取得することで一定の定住効果（転出抑止）に繋がっていると考えています。目標を上回る成果が出ていますが、一応、この総合戦略に合わせた今年度までの施策・措置となります。来年度からも、いかに定住者を増やすか、また、若い人を増やすための施策として制度を見直していきたいと考えています。</p>
委員	<p>どこからの転入者が多いか？</p>
事務局	<p>H30年度実績で233人の対象者がいますが、市外から転入者は47人です。近隣が多く、鹿島市と武雄市、白石町、長崎や福岡からも転入されています。遠いところで千葉から転入された実績があります。</p>
委員	<p>市町から移住支援金という制度を掲げているところもあるが、嬉野市は事業実施しているか？</p>
事務局	<p>東京圏からの転入者で、地方で起業したり県が選定する中小企業への就業を条件に支給される移住支援金ですが、今年度は実施していません。支給要件である県が選定する企業が市内に少ないことが理由ですが、次年度以降で事業実施を検討しています。いずれにしても移住してきてもらえる魅力ある嬉野市づくりに努めていかなければならないと考えます。</p>
委員	<p>現在の社会情勢の中では、人口減少はある程度仕方のないことだが、想定以上に人口社会減が進んでいるようだ。これに対する現状の分析はどうか？</p>
事務局	<p>本市の特徴として、若い女性の転出が非常に多い。そのために、市内等近辺に若い人が魅力を感じるような就業先を創出することが大事だと考えています。現状では高校卒業後等に一度、転出するのはある程度仕方がないと思いますが、他自治体との比較や男女の比較をしたときに、女性が嬉野市に戻ってくる比率が非常に少なく、その辺りを打開していくのが鍵になってくると考えています。</p>
委員	<p>県外に出て佐賀県に戻って来ている女性は少ないと思う。おそらく佐賀市等に留まって、嬉野市まで行き着いていないのかなという感覚です。</p>

委員	<p>会社の制度として、子供が産まれても継続就業可能な時短勤務制度などがあるが、結婚相手の勤務地等が遠かったりすると、どうしても嬉野市から通勤できず退職せざるをえない状況もあるようだ。また、求人には多数の応募があり、全体的に女性の働く場が少ないのかなと感じている。</p>
委員	<p>私自身、県内4自治体で生活してきた中で、それぞれの特徴があり、実際、嬉野市の子供医療費無料などは他市町と比べて嬉野がいいなと実感している。結婚して子育てする環境が、嬉野市はどこよりも整っていますよというアピールがもっとあれば、他市町で就労しても嬉野市で暮らす安心感があるのではないかと思う。</p>
委員	<p>他の自治体で福岡での定住促進の説明会を開催したが、全然人が集まらなかったと聞いたことがあった。広報のやり方として、県内の自治体は県内の新聞・テレビのみで発信する傾向にあり、これでは発信力が弱い。都市部で広報する場合は、ターゲットの世代等に合わせた多様なメディアを活用する必要があると思う。</p>
委員	<p>都市部で定住促進のイベントを開いた際の来場者の反応はどうか？</p>
事務局	<p>県と連携しながら福岡や東京で移住相談会を開催しているが、本市は観光地としてイメージもしくはよく知らないといった反応がほとんどのようです。移住・定住という面で、今後いかに他市町との差別化を図っていくかということも重要と考えます。相談者からは、移住した場合の就業先などについての問い合わせが多いようです。</p>
委員	<p>先日、近隣市町での就職説明会があった。働き手を探している会社は山のようにあるが、実際働きたい人と会社が上手くマッチングできていないように感じた。一方で、このところ嬉野市に若い人が帰ってきて、お店を出したいといったお話を耳にすることがある。これが定着して、上手いこと生活できるようになれば、また呼び水になるのではないかと思っている。</p>
	<p><b>基本目標②</b>  <b>嬉野市で働きたい“しごと”をつくる</b></p>
委員	<p>企業誘致ビルが今年度中に完成予定とのことだが、雇用創出の見込みどれくらいか？</p>

事務局	<p>企業誘致ビルは来年2月に新幹線駅の裏手に完成予定です。嬉野市が初めて誘致した企業ということで、来年3月には現在市内仮事務所で開催中のペット保険会社が入居されます。会社の採用方針変更やIT化推進などにより、当初の75名程度の採用予定が、最終的には40名～50名の採用を考えているとのことでした。また、その他の企業の入居見込みですが、県の東京事務所等と連携しながら誘致活動を行っています。まだ確定というところまでは至っていません。</p>
委員	<p>若い人たちの働く場を作っていくということで、引き続き頑張ってください。</p>
委員	<p>企業誘致ビルの場所ですが、以前、企業側からインターチェンジの近くが良いといった話を聞いたが、その辺はいかがか？</p>
事務局	<p>嬉野市はIT関係の会社を中心に企業誘致のアプローチをかけています。昨今、佐賀県中心部には企業進出が進んでいますが、嬉野市まで目が向いていないのが現状です。嬉野市にも新幹線が開業しますし、利便性でも負けていないと思います。今後、佐賀西部にも目を向けてもらえるように努力していく必要があります。</p>
委員	<p>県内でもインターチェンジ近くに工場等が進出している。工場誘致の計画はないか？</p>
事務局	<p>環境問題など色々な条件もあって嬉野インター近くには、新しく工場団地等を整備する計画はありません。現時点では製造業等の工場誘致は久間地区を考えています。</p>
委員	<p>インターンシップ受入れは、大学生等が来られていると思うが、人数的にどうか？</p>
事務局	<p>民間で実施されている分をすべて把握できていません。市内では観光協会や医療センターをはじめ、また、教育現場のカリキュラムの一環として市役所の健康福祉分野等での受入れを実施しています。今のところインターンシップの受入体制という点で、受入企業等との連携や支援が不足しているので、働く場が少ないといった課題への対応など体制強化していくべきと考えています。</p>
委員	<p>インターンシップ参加が、故郷へ帰ってくるきっかけになったりする。県庁も将来の人材不足を懸念し、人事課だけでなく各部署が大学に出向き、インターンシップ受入れの周知を行っている。こちら</p>

		から出向いて積極的にPRしないと良い人材を集めることが難しい時代になってきていると最近身にしみて感じる。
事務局		よろしければ、学生をインターンシップに送る側としてのご意見もお聞かせいただけたらと思います。
委員		特に公務員職はインターンシップが大事だと思う。公務員志望の学生は、民間企業に比べて仕事内容について知る機会が乏しいのでニーズはある。一方で自治体側からすると、良い人材をいかに確保していくかが課題となっている。大学生にインターンシップの機会を与えることが嬉野に帰ってくるきっかけになるのかなと思う。
委員		ちなみに嬉野市役所の採用は何人か？
事務局		来年度採用は2名程度の予定と聞いています。
委員		近年、県庁の採用は多くなっていて、最近はUIJターンで社会人になってから戻ってくる方の採用も少し広がってきた。一度社会を経験した方の働く力を求めているところもある。
委員		就農トレーニングファームの修了生は4名とも嬉野の方か？
事務局		嬉野出身ではない方もいらっしゃいます。
委員		武雄のトレーニングファームがとても評判がいい。指導者の方が全国的にも有名な方だということもあるが、その方に負けないくらい、稼げる実力をつけて就農されているようだ。今後、しっかりやれば新規就農によってこれだけ儲けられるというモデルができ、それを広く発信できれば、農業のイメージも変わってくるのかなと思う。
委員		やはり外から入ってきて農業を志す場合、その地で就農可能かどうかの情報等は少ない。
委員		いきなり新規で入った方はなかなか難しい。そのような中、県内に富士町のハウレンソウ、武雄市のキュウリ、白石町のイチゴのトレーニングファームと3か所ができた。今一番実績をあげているのが武雄のトレーニングファームのようだ。域外からの就農希望者も、2、3年トレーニングファームで経験し、指導者や他農家など地域の人の信頼が得られると、移住も仕事も軌道に乗っていくと思われる。

事務局	<p>先ほどの企業誘致ビルのところの補足になりますが、昨今、佐賀県中心部等には企業進出しているが、嬉野市まで及んでいない原因として、嬉野市へ進出した場合に人材の確保ができるのかということが大きいようです。他市よりも企業誘致ビルの入居家賃を低くしたり、市の補助制度も他市町に負けないぐらいのものを持っていますが、やはり人材の確保の部分でマイナス要因があるようです。</p>
委員	<p>人の確保は何を持って判断されるのか？</p>
事務局	<p>ハローワークの数字あたりを提示しています。</p>
	<p><b>基本目標③</b> <b>嬉野市で結婚・出産・子育てしたい“まち”をつくる</b></p>
委員	<p>以前の委員会で、嬉野市は男性の独身者が多いという話で、いろいろ取組みが行われていたように思うがいかがか？</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり、男性の未婚率が高い傾向にあります。前にもお話したように、キーポイントは仕事で、職場が少ないということになります。</p>
委員	<p>安心して子どもを育てられる環境の確保で、子どもセンターがまだ設置できていないのに、A評価なのはどうなのか？開設場所は選定されたのか？</p>
事務局	<p>嬉野地区に子育て支援センターを開設していますが、塩田地区にはなく設置の方向で動いているということです。また、子どもセンター開設に向けても、現在、協議検討されており、財源確保については、ふるさと応援寄付金の一部を子育て夢基金として、子どもセンター新設等のために積み立てています。</p>
委員	<p>子育て環境整備に関連して、以前、育児休暇を推進するための会社等への補助金制度があることを知った。市内には中小の会社が多く、制度を知る機会も少ないと思うので、行政の制度などの説明会開催や資料配布等の情報発信がもっと必要だと思う。そうすれば、女性社員等の数も増え、子育てしながら働きやすい環境ができ、子育てしやすいから嬉野に住もうと思ってもらえると思う。こういったことが、長い目で見ると定住促進につながるのかなと思う。</p>

事務局	国等の支援制度等も、市の方から市民や市内事業所に発信できるように努めていきたい。
委員	嬉野市は高年齢の独身の方が多いように思う。男女とも年を取ったから同世代で結婚したいという人ばかりではないと思う。そういった意味でも、これまでの結婚支援は型にはまっている感じがあるので、年齢制限を広くするなど仕組みづくりのところから、見直していく必要もあるのではと思う。知人に結婚支援事業への登録を勧めても、なかなか踏み切れていないのが現状のようだ。
委員	結婚支援の登録をするまでが、なかなか難しい。入り口をもう少し入りやすくしてもらえたらと思う。
事務局	結婚支援については、機構改革で4月より企画政策課で担当するようになりましたので、その辺は工夫していきたいと思います。
委員	出会いのイベント等で、人がたくさん集っているところもあるが、やはりそれは企画次第なのかなと思う。
委員	テレビで婚活イベントの番組などがある。嬉野市もお祭りのな感じで婚活事業ができたらいと思う。
委員	テレビ番組などが活用できれば、地元の人たちの人柄や地域の風土などを発信でき、イメージアップにもつながる。女性目線では、まずは住みやすい場所かどうかや、生活ができる場所かどうかは重要なことだと思う。
委員	ひとつ前に議論した企業誘致ビルのように新しく生み出していくことも大事だが、今ある職場を魅力的にして、新しく人を集めることは、比較的に対応しやすいことではないかと考えます。
	<b>基本目標④</b> <b>嬉野市で安心して暮らしたい“地域”をつくる</b>
委員	空き家対策について、特定空き家の認定率を目標していたのはどういったことか？
事務局	これまで認定ができていない状態でしたが、今回、空き家対策協議会の中で様々な過程を経て、1件の危険な空き家が認定され、今後、

	<p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>危険空き家の除去など行政的な手続きが可能となりました。現状では特定空き家に認定すべき物件は1件のみで、認定率は100%になりますが、こちらでもこの数値目標の設定自体がどうだったのかなと感じています。</p> <p>危険空き家の把握や特定空き家の認定については、引き続き行なっていってもらいたいと思うし、もうひとつ、そういった空き家を増やさないようにどう取り組んでいくのかが大事なことだと思う。現状の認定率を数値目標にするのは少しおかしいように感じる。</p> <p>今回改めて担当課の方とも協議したところです。今後の総合戦略の中で、特定空き家の認定率が数値目標として適当であるかどうかは再度検討したいと思います。</p>
<p>その他</p>	<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p><b>今後の総合戦略推進委員会について</b></p> <p>例年、7月時点で前年度事業についての検証を行って、11月に次年度以降の戦略の見直し・変更を行っていたところです。</p> <p>前々からの委員会議論の中でもありましたように、具体的な施策の事業進捗評価だけでなく、この総合戦略に掲げたKPI達成度に対する評価や事業内容に対する評価を行い検証していくべきではないかということだったと思います。</p> <p>最終年度ですので、戦略に掲げたKPI達成度に対する評価や事業内容に対する総合的な効果検証が必要と考える。しかし、これまででいけば、来年7月に検証することになり、次期総合戦略策定を考えたらそれでは遅いと思う。最終年度が終了しなくても、これまでの数年間積み上げてきたもので十分検証は可能かと思う。総合戦略全体としてどうだったのか等を真摯に検討していかなければいけないのかなと考えます。その上でスケジュールをどうしていくかは事務局での検討をお願いしたい。</p> <p>現在の総合戦略が平成27年7月に策定されましたが、実際は平成27年度当初から5年間の計画です。他自治体でも見直しなど次期総合戦略の検討が進められていますが、今年度中に策定完了し令和2年度当初から計画をスタートする自治体もあるようです。本市においては、今期総合戦略の検証を年度内にしっかりやってから、令和2年度中に次期総合戦略を策定する方針で考えていますがいかがですか。</p>

	委員	市としては現在の総合戦略を見直して、第2期の総合戦略を策定する方向で考えているということですね。
	事務局	そういうことになります。先ほどありましたように、現総合戦略の総合的な評価・検証は年度内に実施したいと思います。委員会の開催時期と評価・検証のやり方については、事務局の方で検討させていただきます。

# 審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
議 題	2 その他		
内 容	地方創生推進交付金にかかる平成 30 年度地方創生関連の 3 事業の事業内容等について、事務局より説明の後、委員より意見を聴取し事業の評価・検証を行った。		
審議経過	事務局	<p>平成30年度地方創生関連の3事業の概要説明及び各事業実施に関する補足説明等を行う。</p> <p><b>1. 地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業（嬉野デザインウィーク事業）</b> 【広域連携事業：広報・広聴課（企画政策課）】</p> <p><b>2. 観光とスポーツを核とした「稼げる観光産業」創出プロジェクト（肥前窯業圏関連事業）</b> 【広域連携事業：観光商工課】</p> <p><b>3. 嬉野版DMOを核とした地域ブランドづくり推進事業</b> 【市単独事業：観光商工課】</p>	
	委員	<p>「地域クリエイターと連携した新たな担い手育成及びコンテンツ等開発事業（嬉野デザインウィーク事業）」は何年間の事業か？ また、今年度事業のテーマ選定と事業成果について伺う。</p>	
	事務局	<p>他市町との広域連携事業であり毎年度の申請は必要ですが、国よりH28年度から5年間事業として採択され、実施していく予定です。 ただし、事業規模（予算）は各年度で違ってきます。 テーマは産業団体等の代表で構成する実施主体「嬉野デザインウィークコンソーシアム」で決定しています。今年度はインバウンドなど観光コンテンツとしても注目される「忍者」をテーマに、嬉野市を拠点とする九州忍者保存協会主催の「うれしの温泉忍者フェスタ」とも連携し、本市の多彩な魅力を発信することができ、連携企画等による商品開発や地域間交流も促進されました。</p>	
	委員	<p>「観光とスポーツを核とした稼げる観光産業創出プロジェクト（肥前窯業圏関連事業）」の平成30年度事業成果はどのようなものか。</p>	

	<p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p>	<p>本事業は、長崎・佐賀の2県15市町計17自治体での連携事業となりますが、嬉野市が参画している事業は、肥前窯業圏関連の事業です。平成30年度としては、地域間連携による広域周遊観光促進や魅力創出等の事業が主なもので、陶磁器で製作したアクセサリーなどもメディアで取り上げられました。</p> <p>「嬉野版DMOを核とした地域ブランドづくり推進事業」は次年度以降どうなるのか？</p> <p>本事業は、地域DMOの育成や運営の支援のための補助、及び地域ブランド創出のための観光商工関連4団体への自主事業に対する補助という形で実施しています。本事業としては令和元年度が最終年度となりますので、今後、新たな形で地域産業振興施策・事業に取り組んでいく必要があると考えています。</p>
<p>その他</p>	<p>なし</p>	